

Vallance, Aymer

The art of William Morris.

London, G. Bell, 1897. (文献番号12-5)

ヴァランス著

ウィリアム・モリスの芸術

1896年、ウィリアム・モリスはロンドン西郊テムズ河畔にあるハマスミスの自宅ケルムスコット・ハウスで62歳の生涯を閉じた。その死後2、3年のうちに、W.モリスと同時代を生きた人によって、W.モリスの最初の研究書と伝記の2冊が刊行された。現在ではW.モリス研究の古典的文献で、モリスの次女メイ・モリスの編集による『W.モリス著作集』全24巻(1910—1915年)、『W.モリス著作集補遺—芸術家、著述家、社会主義者』2巻(1936年)と共に重要な基本的資料となっているものである。その2冊とは、W.モリスの死1年後の1897年に刊行されたエイマー・ヴァランス著『W.モリスの芸術』と1899年に刊行されたJ.W.マッケイル著『W.モリスの生涯』である。そして本稿で紹介しようとしているのが前者のA.ヴァランスの著作なのである。

著者A.ヴァランスは、W.モリスの友人でデザイナー、著述家であり、本書には彼による1897年2月付けの序文が付記されている。それによると、A.ヴァランスが1894年の秋W.モリスを訪れてモリスに関する出版物の刊行の許可を求めた時、W.モリスは自分の死後まで待つようにと条件をつけたことが述べられている。したがって本書はW.モリスの生前に準備されていることがわかる。結局、W.モリスの死後、ロンドンのジョージ・ベル社より220部刊行され、そのうち10冊が贈本とされ、210冊が販売された。そして本書はそのうちの No. 56 に当たるものであることが銘記されている。

本書の目次は8章から成り、時代の始まり、オックスフォードからロンドンへ、芸術と詩集、合間に、赤い家、モリス商会、装飾家、ケルムスコット・マナー、協会、本の装幀とケルムスコット・プレス、といった内容である。このような8章からなる本書をより楽しく読ませてもらえるのは、各章の多数のモノクロ図版と巻末のカラー図版であろう。なお本書の改訂版に William Morris, his art, his writing and public life, a record by Aymer Vallance. London, Studio Editions, 1986 があることを付記しておく。図はケルムスコット・ハウス。

(若宮)

